

平成26年度 全日本学生柔道優勝大会(男子63回 女子23回) 大会要項

- 1、大会名 平成26年度 全日本学生柔道優勝大会(男子63回 女子23回)
- 2、主催 (一社)全日本学生柔道連盟・毎日新聞社
- 3、主管 東京学生柔道連盟
- 4、後援 文部科学省、東京都、(公財)日本武道館、(公財)講道館、(公財)全日本柔道連盟
(公財)東京都柔道連盟
- 5、期間 平成26年6月28日(土) 女子3人制、女子5人制、男子1回戦
開場：午前8時00分 **開会式(男女同時開催)**：午前9時00分
試合開始：午前9時30分
平成26年6月29日(日) 男子2回戦～決勝戦
開場：午前8時00分 試合開始：午前9時00分
- 6、会場 日本武道館 東京都千代田区北の丸公園2-3
- 7、競技規則
- (1) 参加資格
- ①(一社)全日本学生柔道連盟の法人正会員たる柔道部の在籍者であり、かつ、(公財)全日本柔道連盟に登録した者。
 - ②国公立大学又は短期大学などに在籍の学生。
 - ③各地区学生柔道連盟から推薦された大学。
 - ④在学中、実業団その他の職域チームに属し、その試合に出場していない者。
 - ⑤本大会への選手登録回数が4回以下の者(但し医学部、歯学部、薬学部、獣医学部の学生は6回以下の者)
- (2) チーム編成
- ①男子：1大学1チームとし、部長、監督、コーチ、主務各1名と、選手12名の計16名以内とする。
 - ②女子：1大学1チームとし、5人制は部長、監督、コーチ、主務各1名と選手57kg以下3名、70kg以下3名〔57kg以下申込可〕、無差別2名の計12名以内とする。3人制は部長、監督、コーチ、主務各1名と選手6名の計10名以内とする。
- (3) 試合方法
- ①男子：試合は各チーム7名の点取り式によるトーナメント戦で行い、各試合の選手配列は自由とする。
 - ②女子5人制：5名の点取り式によるトーナメント戦とし、各試合の選手の配列について、先鋒・次鋒は体重57kg以下、中堅・副将は70kg以下、大将は無差別とする。
 - ③女子3人制：3名の点取り式によるトーナメント戦とし、体重無差別、選手の配列は自由とする。
 - ④1回戦のオーダーは男女ともに午前8時20分までにオーダー受付まで提出する。
また男子2回戦のオーダーは2日目の午前8時20分までに提出する。女子2回戦、男子3回戦以降は対戦校決定後5分以内に提出する。5分経過後は自動的に前回戦のオーダーとなる。
- (4) 審判規定
- ①国際柔道連盟試合審判規定による。(2014 - 2016)
 - ②判定基準は、「有効」以上とする。
 - ③チーム間の勝敗の決定は、勝者の多いほうを勝ちとし、勝者同数の場合は内容差で決定する。全て同一の場合は、男子並びに女子3人制では代表者1名を自由選出し代表戦を行う。(代表戦の判定基準は個人戦に準ずるものとする) 延長戦の場合は、ゴールデンスコア方式にて勝敗を決定する。ただし両者失格等で勝敗がつかなかった場合は他の選手の中から自由選出し再試合を行い、勝敗を決定する。
※下半身への積極的な攻撃または、相手の技に対応しての攻撃については反則負け(内股など→すくい投げ)、しかし、相手の技への対応として下半身をつかんでの防御のみは『指導』とする。強引に引きつけられて、下半身をつかんだ等に対しては『指導』のみの反則とする。
女子5人制では引き分けた階級の中から1組を抽選しゴールデンスコア方式にて代表戦を行い、勝敗を決定する。ただし両者失格等で勝敗がつかなかった場合は他の選手の中から再抽選し、ゴールデンスコア方式にて試合を行い勝敗を決定する。なお、引き分けの階級がない場合においては、両者反則負け等で勝敗が決まらない階級の中から、1組を抽選しゴールデンスコア方式にて、勝敗を決定する。
- (5) 柔道衣 (公財)全日本柔道連盟柔道衣規定に合格した柔道衣(上衣、下穿、帯)を着用すること。
- (6) ゼッケン 出場選手は必ず所定のゼッケンを柔道衣につける。(詳細は別紙)
- (7) 紅白帯 紅白帯は試合に出場する人数分を各大学で用意する。
- 8、各地区出場校 《男子》 参加校は62校とし、各地区の出場校は次の通りとする。

北海道	東北	北信越	関東	東京	東海	関西	中国四国	九州	合計
4	4	4	10	18	4	8	4	6	62

《女子》 各地区の出場校は次の通りとする。

北海道	東北	北信越	関東	東京	東海	関西	中国四国	九州	合計
4	4	4	12	13	5	8	6	6	62+2

※上記の数は5人制、3人制のトータル数とし、どちらに出場するかは各地区学生柔道連盟にて決定する。

※但し、5人制、3人制ともに前年度優勝校は主催者推薦とし各地区枠外とする。

9、選手計量

女子5人制出場校の先鋒・次鋒・中堅・副将出場者は試合前日に計量を行う。

場所：講道館新館第4会議室

日時：平成26年6月27日(金) 予備計量 午後3時30分～4時00分 本計量 午後4時00分～4時30分

10、表彰

《男子》 (1)優勝校、準優勝校、第3位校(2校)、並びにベスト8校を表彰する。

(2)優勝校には文部科学大臣賞並びに日本武道館賞を授与する。

(3)技能優秀選手：男子10名に優秀選手賞を授与する。

《女子》 (1)5人制・3人制ともに、優勝校、準優勝校、第3位校(2校)を表彰する。

(2)5人制・3人制ともに、技術優秀なる者、4名に優秀選手賞を授与する。

11、優秀選手選考委員

優秀選手選考委員は各地区の学生柔道連盟より1名とする。(原則として(一社)全日本学生柔道連盟理事)

12、審判員

審判員数の総数は54名とし、各地区の学生柔道連盟は下記の人数の審判員を帯同する。

[公財)全日本柔道連盟派遣審判員6名以内(審判長含む)、東京19名、関東12名、関西10名、北信越3名

北海道・東北・東海・中国四国・九州は各2名]

13、参加申込

(1)申込先 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-3 日本武道館内 東京学生柔道連盟

TEL 03-3213-7106 FAX 03-3287-3282

(2)申込方法 参加申込責任者は各大学監督とし、WEBにて申し込みを行い、各地区学生柔道連盟は、下記の書類をまとめて主管事務局へ郵送する。(P.17を参照)

①参加選手の在学証明書・健康診断書(地区予選に登録されなかった選手のみ)

②プログラム掲載用写真(詳細は別紙)

③IDカード(詳細は別紙)

(3)申込日程 WEB申込期間 平成26年5月26日(月)～28日(水)

書類郵送締切 平成26年6月2日(月)午後5時必着

(4)参加費 男子-1大学30,000円 女子-5人制出場校：1大学20,000円 3人制出場校：1大学15,000円

※各地区学生柔道連盟がその地区からの参加費を取りまとめて、5月28日(水)正午までに下記口座へ振り込む。

振り込みが確認できない場合は本大会の参加は認めない。

参加費は各地区連盟の指定先へ振り込む。各地区連盟は下記口座へ期日までにまとめて振り込む。

《振込先》三井住友銀行 小石川支店(813)普通 428679 (一社)全日本学生柔道連盟 会長 佐藤 宣践

(5)選手変更 女子5人制においては、6月19日(木)午後5時までに必要な書類を添えて、主管事務局まで提出した者は変更を認める。ただし階級間の移動は認めない。

※必要書類とは、変更用紙、怪我した者の診断書と変更選手の在学証明書、健康診断書、IDカード用写真。

14、組み合わせ

(一社)全日本学生柔道連盟役員立ち合いのもと、東京学生柔道連盟により行う。

日時：平成26年6月7日(土) 時間：午前10時00分～

会場：講道館新館2階教室 シード校：シード基準は別紙による

15、審判員会議

日時：平成26年6月28日(土) 時間：午前8時20分～ 会場：日本武道館(当日案内)

16、監督会議

日時：平成26年6月27日(金) 時間：午後5時00分～ 会場：講道館新館2階教室

※ 大会上の注意事項の伝達や、IDカード、プログラム等の配布をするので、申込時に登録した部長、監督、コーチのいずれか1名が出席する。出席できない場合には、委任状(P.32)を提出する。(学生には委任できない)

なお、無断欠席した場合には出場を認められないことがあるので注意する。また参加人数は各校1名とする。

17、安全対策

主催者は大会出場選手に対する傷害保険に必ず加入するとともに、救急指定病院の手配を行う。試合場に医師を配置し応急処置を施すが、それ以上の責任は負わない。大会当日、出場選手は必ず保険証(コピー不可)を持参する。

18、練習会場

講道館にて6月27日(金)午後1時～4時、28日(土)午前10時～午後4時まで練習を行うことができる。

その際、別紙所定の用紙にて、6月2日(月)午後5時までに主管事務局へ申し込む。

※事前の申し込みのない大学の選手は利用できない

19、大会事務局

主催事務局 〒112-0003 東京都文京区春日1-16-30 講道館内 (一社)全日本学生柔道連盟

TEL 03-3818-1587 FAX 03-3818-1960

主管事務局 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-3 日本武道館内 東京学生柔道連盟

TEL 03-3213-7106 FAX 03-3287-3282

※質問・問い合わせ等は、すべて主管事務局(東京学生柔道連盟)に行う。

20、その他

《皮膚真菌症について》

皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において的確な治療を行う。選手に皮膚真菌症の感染が認められた場合は、大会への出場を禁止する。(ただし、2週間以内の治療証明書がある場合は、出場を認める)